

令和2年度
授業評価結果報告書

群馬県立県民健康科学大学
教務学生委員会

令和2年度 授業評価報告書

1. 授業評価の概要

1. 1 授業評価の趣旨

授業評価の目的は、各教員が授業の内容および方法を改善し、教育の質を向上させることである。本学では平成22年度から、学生による授業評価とそれに基づいた教員の自己評価を組み合わせる形で授業評価を開始し、その評価結果を学生と教員が共有することで、この目的達成に取り組んでいる。

1. 2 学生による授業評価

1. 2. 1 調査票について

学修支援システム manaba（以下、manaba とする）を用いた授業評価アンケート調査は、平成29年度より開始されており、「講義」、「演習」、「実験」、「実習」の4種類の授業形態毎に調査する方法が本年度も継続された。学生各自の manaba のマイページの最上部に、学生が履修している授業形態別にアンケートがリスト表示され、リストの中から回答したい授業科目名を選択して回答する仕組みである。アンケートの冒頭に、このアンケート調査の目的は教員が学生による授業評価結果を把握し授業改善・向上に活用することであり、集計時に回答者の個人情報の匿名化が行われることが明示され、授業評価の趣旨と個人情報保護についての説明が充分になされている。

Web システムによるアンケートでは、質問形式の自由度が増加したことから平成30年度より授業評価アンケートの内容が改訂され、学生の回答を通して教員が自身の改善点を明確に把握できる質問内容となった。アンケートの大項目は、学生の授業に対する理解度・目標の達成度の確認、理解度・達成度が十分でない場合の理由、授業に対する取り組み姿勢・準備状況、教員側からの自己学修の促進、成績評価の明確さ、授業の満足度と良かった点・改善点を問う構成となっている。回答には原則として5件法を採用した。

次ページ以降に授業形態別の授業評価アンケート評価項目を示す。

表 1 授業評価における授業形態別の評価項目

	分類	項目 No.	評価項目
講義	講義内容の理解度と目標の達成度、達成度が十分でない場合の理由	①	講義の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか
		②	前項①で1-3と回答した方は、十分達成できなかった理由は次のどれに近いと思いますか
		③	前項②で4を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
		④	前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください
		⑤	前項④で1-2を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
	講義に対する取り組み姿勢・準備状況	⑥	シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で講義を受けましたか
		⑦	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか
		⑧	講義に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか
	自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑨	講義にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされていましたか
		⑩	成績評価の方法と基準は明確でしたか
	講義内容の満足度、良かった点・改善点	⑪	総合的にみて、この講義に満足できましたか
		⑫	この講義の良かった点、改善点について、具体的に記入してください

	分類	項目 No.	評価項目
演習	演習内容の理解度と目標の達成度、達成度が十分でない場合の理由	①	演習の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか
		②	前項①で1-3と回答した方は、十分達成できなかった理由は次のどれに近いと思いますか
		③	前項②で4を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
		④	前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください
		⑤	前項④で1-1を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
	演習に対する取り組み姿勢・準備状況	⑥	シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で演習を受けましたか
		⑦	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか
		⑧	演習に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか
	自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑨	演習にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされていましたか
		⑩	成績評価の方法と基準は明確でしたか
	演習内容の満足度、良かった点・改善点	⑪	総合的にみて、この演習に満足できましたか
		⑫	この演習の良かった点、改善点について、具体的に記入してください

	分類	項目 No.	評価項目
実習	実習内容の理解度と目標の達成度、達成度が十分でない場合の理由	①	実習の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか
		②	前項①で1-3と回答した方は、十分達成できなかった理由は次のどれに近いと思いますか
		③	前項②で4を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
		④	前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください
		⑤	前項④で2-4を選んだ方は、具体的な理由を記入してください

実習に対する取り組み姿勢・準備状況	⑥	シラバス・オリエンテーションにより、授業の目的や目標、テーマを理解した上で実習を行いましたか
	⑦	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか
	⑧	実習に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか
自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑨	実習にあたり自己学修を促す工夫がされていたか
	⑩	成績評価の方法と基準は明確でしたか
満足度、良かった点・改善点	⑪	総合的にみて、この実習に満足できましたか
	⑫	この実習の良かった点、改善点について、具体的に記入してください

	分類	項目No.	評価項目
実験	実験内容の理解度と目標の達成度、達成度が十分でない場合の理由	①	実験の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか
		②	前項①で1-3と回答した方は、十分達成できなかった理由は次のどれに近いと思いますか
		③	前項②で4を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
		④	前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください
		⑤	前項④で1-1を選んだ方は、具体的な理由を記入してください
	実験に対する取り組み姿勢・準備状況	⑥	シラバス・オリエンテーションにより、授業の目的や目標、テーマを理解した上で実習を行いましたか
		⑦	わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか
		⑧	実験に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか
	自己学修の促進、成績評価の明確さ	⑨	実験にあたり自己学修を促す工夫がされていたか
		⑩	成績評価の方法と基準は明確でしたか
	満足度、良かった点・改善点	⑪	総合的にみて、この実験に満足できましたか
		⑫	この実験の良かった点、改善点について、具体的に記入してください

上記評価項目に対応する主な回答の選択肢を示す。

【全科目区分共通：項目①】※授業形態により下線部を表示

講義（または、演習、実習、実験）の内容を理解し、授業の目標を達成したと思いますか。

1. 達成できなかった
2. 最低限達成した
3. おおむね達成した
4. 十分達成した
5. 高いレベルで達成した

【全科目区分共通：項目②】

前項で1-3と回答した方は、十分達成できなかった理由は次のどれに近いと思いますか。

1. 勉強が足りなかった
2. 教え方が良くなかった
3. 1と2の両方
4. その他

【講義：項目④】

前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください。

1. 講義の目的・目標が明確でなかった
2. 話し方が聞き取りにくかった
3. 板書やスライド、資料が見にくかった
4. 講義の説明がわかりにくかった
5. 講義の時間配分が適切ではなかった
6. 学生の理解度の確認が十分でなかった
7. 質問・意見が気軽にできなかった
8. 質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかった
9. シラバスに記載されている内容を授業で扱わなかった
10. 教え方が熱心でなかった
11. 学生の私語や出入りがうるさくても、教員が注意をしなかった
12. その他（ ）

【演習：項目④】

前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください。

1. 演習の目的・目標が明確でなかった
2. 話し方が聞き取りにくかった
3. グループワークや課題に対する指示が明確でなかった
4. 演習の時間配分が適切ではなかった
5. 教材・器具、資料が適切でなかった
6. 質問・意見が気軽にできなかった
7. 質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかった
8. プレゼンテーションや提出物に対するフィードバックが十分でなかった
9. シラバスに記載されている内容を授業で扱わなかった
10. 指導が熱心でなかった
11. その他（ ）

【実習：項目④】

前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください。

1. 実習（テーマ）の目的・目標が明確でなかった
2. 説明が聞き取りにくかった（本学教員）
3. 説明が聞き取りにくかった（実習先指導者）
4. 説明が聞き取りにくかった（両方）
5. 指示・助言が明確でなかった（本学教員）

6. 指示・助言が明確でなかった（実習先指導者）
7. 指示・助言が明確でなかった（両方）
8. 時間的に十分な指導を受けられなかった
9. 必要な教材・器具が十分準備されていなかった
10. 質問・意見が気軽にできなかった（本学教員）
11. 質問・意見が気軽にできなかった（実習先指導者）
12. 質問・意見が気軽にできなかった（両方）
13. 質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかった（本学教員）
14. 質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかった（実習先指導者）
15. 質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかった（両方）
16. カンファレンスが適切に行われなかった
17. 実習報告書など提出物に対するフィードバックが十分でなかった
18. 学生の自主性が尊重されなかった（本学教員）
19. 学生の自主性が尊重されなかった（実習先指導者）
20. 学生の自主性が尊重されなかった（両方）
21. 指導が熱心でなかった（本学教員）
22. 指導が熱心でなかった（実習先指導者）
23. 指導が熱心でなかった（両方）
24. その他（ ）

【実験：項目④】

前項②で2もしくは3を選んだ方は、教え方が良くないと感じた理由を複数回答で選んでください。

1. 実験の目的・目標が明確でなかった
2. 話し方が聞き取りにくかった
3. 実験の指示・助言が明確でなかった
4. 実験の時間配分が適切ではなかった
5. 必要な教材・器具、資料が十分準備されていなかった
6. 質問・意見が気軽にできなかった
7. 質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかった
8. レポートや提出物に対するフィードバックが十分でなかった
9. 学生の自主性が尊重されていなかった
10. 指導が熱心でなかった
11. その他（ ）

【全科目区分共通：項目⑥ ⑦ ⑨ ⑩】

項目⑥：シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で演習を受けましたか。

項目⑦：わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようとしたか。

項目⑨：講義（または、演習、実習、実験）にあたり自己学修を促す工夫がされていたか。

項目⑩：成績評価の方法と基準は明確でしたか。

1. 全くそう思わない
2. そう思わない
3. どちらともいえない
4. そう思う
5. 強くそう思う

【全科目区分共通：項目⑧】※授業形態により下線部を表示

講義（または、演習、実習、実験）に対して週平均どのくらいの自己学修を行いましたか。

1. ほとんど行わなかった
2. 30分程度
3. 1時間程度
4. 2時間程度
5. 3時間以上

【全科目区分共通：項目⑪】

総合的にみて、この講義に満足できましたか。

1. 全く満足できなかった
2. あまり満足できなかった
3. どちらともいえない
4. 満足できた
5. 十分満足できた

1. 2. 2 授業評価の実施方法

授業評価アンケートは、講義期間の最終週までに manaba に公開され積極的に回答されるように広報された。また、単位認定試験後の実習の場合などの講義期間が異なる場合にはアンケート期間の延長等の対応がなされた。

授業評価は、原則として授業最終日の授業時間を活用して、授業担当教員から学生に対して授業評価の依頼と回答方法が説明される。しかし、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、前期は完全オンライン授業を導入した。オンデマンド動画の場合は、最終回の授業において授業評価の依頼や回答方法の説明を加えたり、manaba のニュースコースを活用した授業評価の依頼等、各科目により依頼方法を工夫した。授業評価アンケートは、個人が特定されないシステムを採用しており、学生に不利益が及ぶことはない。また、アンケートへの回答は学生の自由意思によるものとして保障されている。なお、manaba による調査結果の集計は事務局が担当し、教員は関与していない。

1. 3 教員による授業評価報告書

教員による授業評価報告書は、学生による授業評価の集計結果及び自由記述内容を受けて、下記の3項目に沿って作成した。

- 1) 学生による授業評価のアンケート調査結果についての意見・感想
- 2) 実施した授業方法・工夫に対する評価
- 3) 授業に対する総合的評価と改善点

1. 4 授業評価結果の集計方法

学生による授業評価結果及び教員から提出された授業評価報告書は、科目区分別に、「教養教育科目」、「看護学部 専門基礎科目・専門科目」、「診療放射線学部 専門基礎科目・専門科目」に区分して集計した。また、専門教育科目の合同科目については、各学部の区分に含め集計した。調査用紙は授業形態別に「講義」、「演習」、「実習」、「実験」毎に作成されているため、それぞれの区分別に集計した。

2. 学生による授業評価の実施状況

2. 1 授業評価の実施科目数と学生の回答率

本年度に開講した科目の授業評価に関する実施状況及び学生による回答率をそれぞれ表2及び表3に示した。本年度も manaba による調査を継続し、開講されたすべての科目に授業評価アンケートを設定しており、実施率は97%であった。

学生の授業評価への回答率を科目区別にみると、診療放射線学部専門基礎・専門科目が最も高く60.4%であった。さらに、授業形態別では講義が57.4%と最も高く、実習が28.1%と最も低かった。アンケートに manaba を利用して4年目となるが、全体的な平均回答率については前年度44.5%に比較し46.7%と約1%上昇し、回答率は改善傾向にある。

表2 令和2年度 学生による授業評価の実施科目数

科目区分	教養教育科目		看護学部 専門基礎・専門科目		診療放射線学部 専門基礎・専門科目		合計	
	実施	対象	実施	対象	実施	対象	実施	対象
講義	27	28	23	23	38	38	88	89
演習	24	24	24	25	17	18	65	67
実習	1	1	9	9	6	6	16	16
実験	0	0	0	0	5	7	5	7
合計	52	53	56	57	66	69	174	179
実施率	98%		98%		96%		97%	

表3 令和2年度 学生による授業評価の回答率 (%)

科目区分	教養教育科目			看護学部 専門基礎・専門科目			診療放射線学部 専門基礎・専門科目			平均回答率
	回答数	履修者数	回答率	回答数	履修者数	回答率	回答数	履修者数	回答率	
講義	1157	1755	65.9%	599	1634	36.7%	945	1356	69.7%	57.4%
演習	358	700	51.1%	663	1834	36.2%	293	508	57.7%	48.3%
実習	16	114	14.0%	219	598	36.6%	70	208	33.7%	28.1%
実験							119	239	49.8%	49.8%
合計(平均)	898	2056	43.7%	1704	4714	36.1%	1543	2554	60.4%	46.7%

2. 2 学生による授業評価の得点状況

集計の比較が可能な授業評価項目は、以下の7項目である。

- ①講義（または、演習、実習、実験）の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか。
- ⑥シラバス等を参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で講義（または、演習、実習、実験）を受けましたか。
- ⑦わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようとしたか。
- ⑧講義（または、演習、実習、実験）に対して週平均どのくらい自己学修をしましたか。
- ⑨講義（または、演習、実習、実験）にあたり自己学修を促す工夫（レポート・小テスト、manabaの利用など）がされていたか。
- ⑩成績評価の方法と基準は明確でしたか。
- ⑪総合的にみて、この講義（または、演習、実習、実験）に満足できましたか。

各授業評価項目について、科目区分別及び授業形態別に学生の回答から平均得点値を求め図1～図3に示した。科目区分別に見た場合、教養教育科目、看護学部及び診療放射線学部の専門基礎科目・専門科目の評価項目の得点平均値は、いずれも項目⑧（自己学修時間）を除いて、ほぼ4点前後を示した。平均得点が最も高かった項目は、診療放射線学部の実習の項目⑪「総合的にみて、この講義に満足できましたか。」であり、平均得点は4.51と高い満足度であった。この項目⑪の各学部における平均得点は、診療放射線学部4.25、看護学部4.18であり、両学部とも高い満足度を示していた。教養教育科目の講義・演習における項目⑪の平均得点も4.14と高く、満足度は高かったと言える。その一方で、いずれの科目区分別においても項目⑧「講義・演習・実習に対して、週平均どのくらいの自己学修を行いましたか。」に対する平均得点は他の項目に比べて著しく低かった。しかし、教養教育科目の講義の平均得点には改善が見られ2.31であった。項目⑧の得点については、詳細を表4に示した。

自己学修の全授業科目の平均得点は3.3（1時間程度）であった。授業形態別では実習の平均得点が3.9（2時間程度）と高く、講義・演習を上回っていた。昨年度との比較では、講義、演習、実習の平均得点はそれぞれ0.4、0.6、0.5の増加となり、全授業科目平均では0.8改善した。

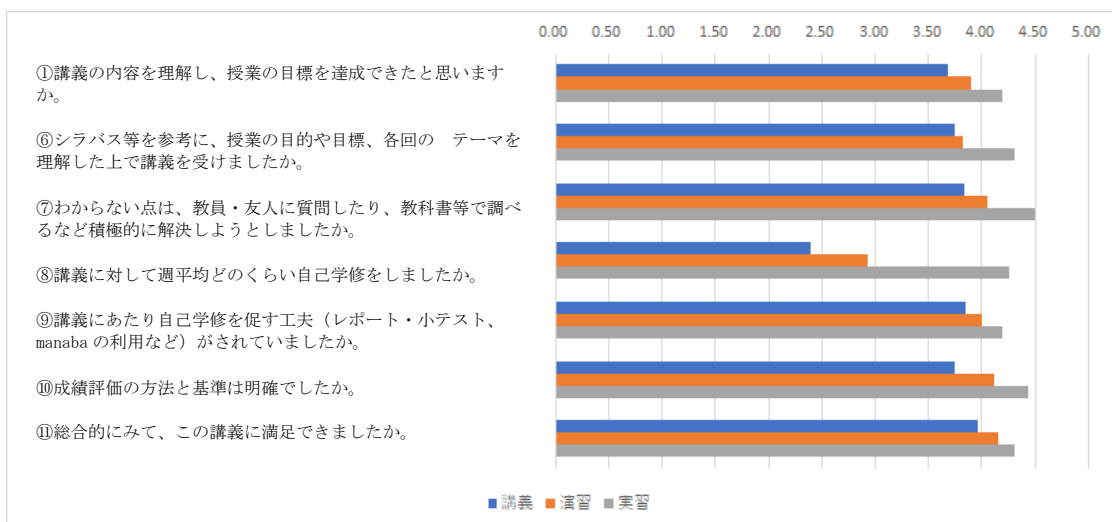


図1 令和2年度 教養教育科目の学生による授業評価得点

(回答数：講義 1157、演習 358、実習 16)

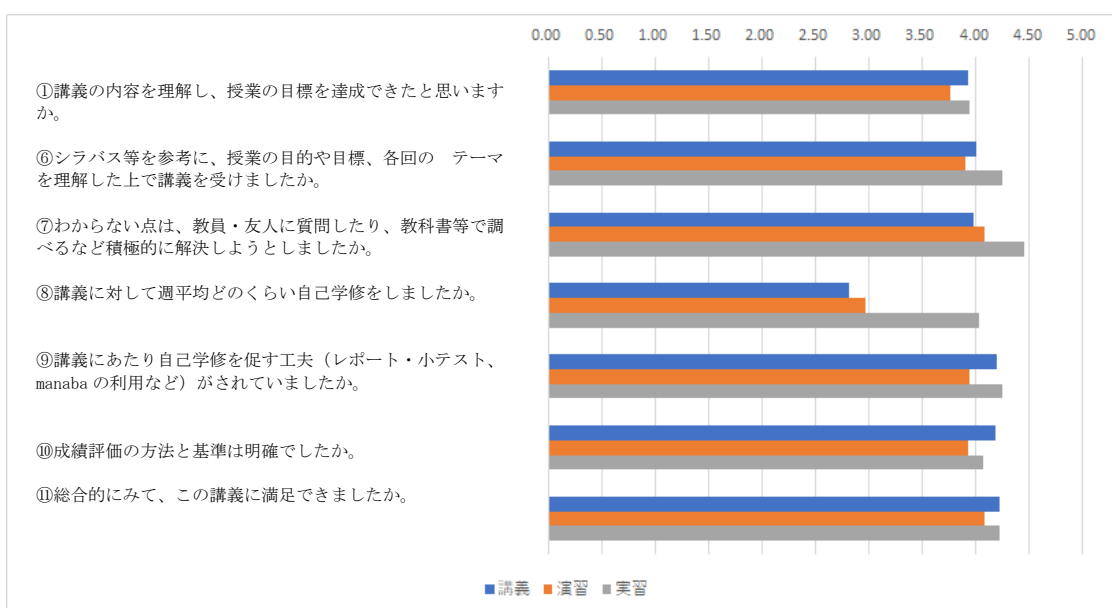


図2 令和2年度 看護学部 専門基礎科目・専門科目の学生による授業評価得点

(回答数：講義 599、演習 663、実習 219)

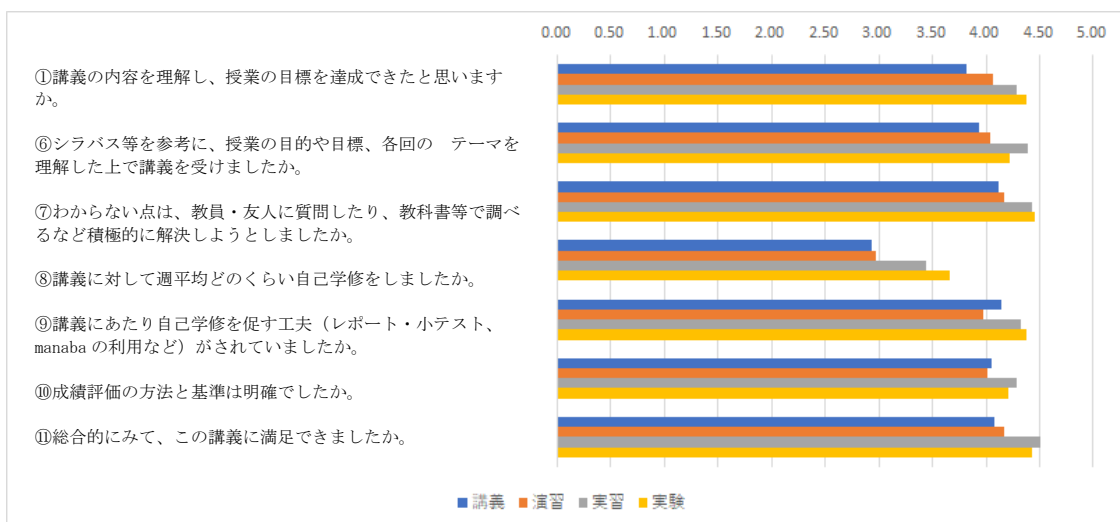


図3 令和2年度 診療放射線学部 専門基礎科目・専門科目の学生による授業評価得点
(回答数：講義 945、演習 293、実習 70、実験 119)

表4 令和2年度 自己学修時間に関する評価得点の平均値

	教養教育科目	看護学部 専門基礎・専門科目	診療放射線学部 専門基礎・専門科目	平均
講義	2.3	2.8	2.9	2.7
演習	2.9	3.0	3.0	3.0
実習	4.3	4.0	3.4	3.9
実験	-	-	3.7	3.7
平均	3.2	3.3	3.3	3.3

2.3 自由記述内容

学生による授業評価は、記載した個人が特定されないよう匿名性が確保されている。従って、アンケートには授業に関する学生の率直な意見・感想が記述されており、自由記述の多くは学生主体の授業への興味・関心からの感想等であったが、授業改善を視点にした授業評価とは無関係な内容も散見された。授業を担当した教員にとって、本アンケートは学生の視点を通して自己の授業を振り返り、授業の改善や向上に資するための貴重な資料である。本授業評価の自由記述の集計・整理作業においては、授業評価とは無関係と考えられる記述内容に対しても学生のありのままの評価として取り扱った。記述内容は類似した内容を項目に分類し、主要な内容を以下に示した。

(1) 学修意欲や理解度の高まりを予期させるもの

- ・ オンライン上のグループワークであったがとても有意義に学修を進められた。
- ・ リモートでの講義や演習も多かったが、演習などはグループワーク等で対面と変わらない意見交換ができた。実技演習もデモンストレーション動画や先生のアドバイスにより行えて良かった。
- ・ 事前課題を各自行うことにより、十分理解を深めた上で授業にのぞむことができた。
- ・ 心理的な支援もしてくれたおかげもあり実習を乗り越えることが出来た。
- ・ 毎日カンファレンスを実施することで、学内ではあるが実習中であることを認識して毎日緊張感を持って取り組むことが出来た。
- ・ 学びたいことに関して専門的に学修を深めることができとても有意義な実習だった。
- ・ 実習には行くことができなかったが、文献検討を通して自分の疑問を解決でき、より根拠に基づいた質の高い看護について学修できた。
- ・ すごく好きな授業の一つで、もっと学びたいと感じた。
- ・ 実践的かつ自主的な実験でやりがいがあった。考えるものが多く大変でしたが身になったと思う。
- ・ もう少し新しい知識や難しい内容を身につけたかった。

(2) 学生が興味を示した教材や手法

- ・ Teams で意見交換できたことが一番よかった。先生が意見を下さることもよかった。動画の講義では自分で考える時間もあり、学校で受けているような感覚だった。
- ・ 毎回講義のはじめに質問に答えてくれるのが良かった。一人で考えるのではなく、話し合う時間があり、自分では気づかなかったことも知ることができ考えが広がった。
- ・ 対面授業より遠隔授業のほうが時間を有効活用でき、とても良いと思った。大学においての新しい生活様式として遠隔授業をこれからも取り入れてほしい。
- ・ 実際に、機器を触り使用する授業でとても楽しく学ぶことが出来た。
- ・ わからない部分を動画で見直すことができた。
- ・ 授業後に manaba での小テストがあり毎回授業内容の復習ができたのがよかった。
- ・ 資料が見やすく、穴埋め式になっていて復習しやすかった。
- ・ リアルタイムで質問をしながら演習ができた。
- ・ オンラインの時は、質問が匿名でできたため、質問しやすかった。
- ・ オンラインとオンサイトの両方で講義を受けられてとてもありがたかった。
- ・ 学内演習では実際にケアを行った。人形での実施だったので想像するのが難しかったが、想定した会話などを行ってくれたためやりやすかった。
- ・ 病院に行くことができなかった領域などもあったが、説明や画像などでどのような様子かを知ることができたためよかった。

- ・ 事例検討や実際の経験談を通して具体的に自分の立場で考えることができ深く学修できた。
- ・ 事前学修を必ず行わないとグループの人に迷惑がかかるというシステムは画期的だと思った。
- ・ 具体的な画像や動画を見ながら色々と教えて下さったので理解しやすかった。
- ・ 実習を通して、座学で習った装置や器具に実際に触れたり、技師と患者との関わりが見られたので、今後学ぶべきことやモチベーションの向上につながった。
- ・ 実際に臨地で実習することはできなかったが、学修を深められた。

(3) 教員の努力を要求するもの

【授業展開】

- ・ 質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかった。
- ・ グループごとに先生が違うことで教え方が異なっていた。
- ・ 行動目標をわかりやすくしてほしい。
- ・ 話し方が聞き取りにくかった。
- ・ マスクやマイクの影響で聞こえにくいときがあった。
- ・ 講義時間の配分が適当でなかった。
- ・ 実習に行くまでの流れがよくわからなかった。
- ・ Teams での話し合いは難しい。グループで集まって、対面でディスカッションをした方が意見が言いやすい。
- ・ 話し合いだけでも実習は対面で行いたかった。
- ・ グループワークの時間がもう少しあると良かった。
- ・ メンバーがどの科目も学籍番号順なため、多様な人とグループワークをしたかった。
- ・ 実際に実習に行けるわけではないので少し生徒の負担が大きくなっていると思った。
- ・ コロナの影響で思うように実技の練習時間が取れなかったことが残念だった。
- ・ 演習が不十分だと感じており、このままでいいのかと不安である。
- ・ 資料や教科書を使用する際、どこの説明をしているのか分からないことも多かった。
- ・ 説明よりも実践した方が分かりやすいので、実践時間をもう少し増やしてほしい。

【教材】

- ・ 学内インターネットの調子が良くないためか先生方の画像や音声の乱れが多かった。
- ・ ワークブックの内容が難しく、特に事前課題の自己評価の内容が難しくてわかりにくかった。
- ・ 写真が多く資料がわかりやすかったが、説明がもっとあるとわかりやすいと思った。
- ・ レジюмеがわかりづらかった。
- ・ スクリーンの画面の文字が小さくて見えにくい時があった。

【教員の姿勢・態度】

- ・ 教員によって指導の仕方の違いが目立つように感じた。
- ・ 期によって説明が違う点があったので、連携を行って統一できると良いと思う。

【成績評価】

- ・ 中間テストを manaba で行うのはどうかと思った。
- ・ グループワークで全然話し合いに参加しなかった人がいるが、それでも提出されたものが良ければ成績は良いというシステムは不平等だと感じた。

(4) その他

【授業環境・要望】

- ・ 新型コロナウイルスの影響もあり実習方法が異なっていることも仕方ないことだとはわかっているが、他のグループの人に、病院行けて羨ましいや、リモートは全然楽だったと言われ嫌に思うことがあった。
- ・ 演習を行う時間が足りなかったため、もう少し時間配分を考えて欲しかった。

3. 1 教員による授業評価報告書の提出科目数

教員による授業評価の対象となった科目数と評価報告書提出科目数を表5に示した。教員による授業評価報告書の回答率は97%（令和元年度は92.2%）であり4.8%向上した。科目区分別でみると看護学部の専門基礎科目・専門科目の回答率が最も高かった。

表5 令和2年度 教員による授業評価報告書の提出状況

科目区分	教養教育科目		看護学部 専門科目		診療放射線学部 専門科目		合計	
	実施	対象	実施	対象	実施	対象	実施	対象
講義	27	28	23	23	35	38	85	89
演習	23	24	25	25	18	18	66	67
実習	1	1	9	9	6	6	16	16
実験					6	7	6	7
合計	51	53	57	57	65	69	173	179
回答率	96%		100%		94%		97%	

3. 2 学生の授業評価に対する担当教員による授業評価報告書の記述内容

報告書の内容は、「学生による授業評価のアンケート調査結果についての意見・感想」、「実施した授業方法・工夫に対する評価」、「授業に対する総合的評価と改善点」の3つの視点からの記述が求められている。主要な内容の一部を以下に示した。

(1) 学生による授業評価のアンケート調査結果についての意見・感想

- ・ コロナ禍の中、学生が自分で学修環境を確保し、自分のペースで学修できたことも学生が満足できた要因ではないかと思う。
- ・ 今年度は遠隔授業だったため、従来の授業法とはかなり異なっていた。学生の評価は大幅に下がるのではないかと思ったが、小幅な減少にとどまっており意外であった。
- ・ 例年よりも自己学修に向き合う学生の態度が格段に向上した印象を受けた。教材や授業内容といった教員側の工夫以上に、学生の対応能力がすばらしかった。
- ・ 自己学修を促す工夫について4と5が86%を占めた。オンデマンドの授業であったので時間をかけて取り組めることができた。また、自己学修を促す特別な工夫というわけではなく、課題を行うために学生はそうせざる負えない状況であったと思う。
- ・ 授業をレコーディングし manaba に載せるのに苦労した。
- ・ 授業は全てオンラインの形になり、学生の顔が見えず、生の声を聞けなかったことは非常に残念だった。
- ・ 今年度はコロナ禍の中で非常勤講師にも大きな負担がかかり、慣れないオンデマンド講義の準備や複数のレポート課題などに多くの準備が必要であった。
- ・ 遠隔授業であったが、全体として高い満足感を持ってもらえ、ほっとしている。
- ・ オンライン講義に変更した中で例年と比較して同程度の講義を実施できた。
- ・ 学生自身が異例の講義形態に対して適応しようとしているという印象を受けた。
- ・ アンケート受付開始期間をもう少し遅らせた方が、実施された授業全体に対する学生からの評価となるのではないかと思う。

(2) 実施した授業方法・工夫に対する評価

- ・ 多くの質問に対してすべて回答するための教員側の負担はとて大きかったが、これが学生の満足度が高くなった要因だと思われる。対面授業ではなかなか聞けない学生の声を多く聞くことができ、講義の中に質問内容を反映させることができた。
- ・ 各授業終了時には、manaba アンケートを通し、授業内容に関する学びの整理や質問や評価を求め、適宜回答するようにした。
- ・ 図表やムービーを多用し、視覚・直感に訴える授業を行い、授業と関連する最新の新聞記事やトピックの紹介をこころがけ、多様な考え方やものの見方を紹介し、それをもとに自分の考えをレポートで提出させた。
- ・ 授業はテキストの内容をパワーポイントにし、manaba のコースコンテンツから常に関覧できるようにした。
- ・ 学生の IT 環境がわかるまでは、学修資料や事前学修教材として印刷物の郵送による配布を行い、次に学生の IT 環境を配慮し、オンデマンドの動画配信を行った。
- ・ オンデマンドを含む遠隔授業だったため、事前・事後課題を明確に提示し、演習においてもデモンストレーション動画を manaba にアップすることで、自己学修の意識づけとなった。

- ・オリジナル資料を作成し、パワーポイント等を用いてオンデマンドにて授業を行った。さらに manaba のアンケート機能を使用し、授業の理解度や質問を確認した。
- ・今年度は遠隔授業になったことから、manaba ドリルを作成し、昨年度までのレベルを落とさないよう努めた。
- ・manaba のアンケートやレポート機能を活用し、毎回の小テストへの取り組みなど、自己学修を促す工夫をおこなった。
- ・講義形式では、①学生が主体的に学修できるよう講義回毎の動画視聴と合わせた授業資料の送付、②理解度の確認を目的とする manaba での小テスト、③manaba を活用し出欠席の確認を行った。
- ・学生が興味を持って意欲的に取り組むことができるよう、①学生が自分なりの考えをもって授業に参加できるよう、各授業、事前・事後学修課題を出す、②学生にとって身近な具体例を用いて説明する、という工夫を行った。今年度はオンデマンド配信のため、参加型授業を行うことができなかった。
- ・リアルタイムで行った講義をレコードして講義終了後から自由に再視聴できるようにした。再復習ができることやアニメーションを用いたことで、理解が深まった点は有益であった。
- ・演習終了後に manaba による学修環境や演習内容に関するアンケートを実施し、オンライン講義の至らない点を次回の演習から修正できるようなフィードバックを構築したが、これは非常に効果的であった。
- ・今年度は学内や双方向 Web 通信による実習代替演習を行ったが、学生からの評価は良好であり、全般的には満足度の高い実習となった。
- ・実際の臨床実習は短くなったが実務の理解はある程度できたのではないかと考える。
- ・感染予防の観点から学生同士の技術練習を制限したが、実習直前にグループ単位による技術練習の機会を設けることで技術の復習と教員に質問する場ができ、学生は実習への不安が軽減された。

(3) 授業に対する総合的評価と改善点

- ・オンライン講義でフィードバックを丁寧に行ったことで、学修効果は対面授業よりも高まったと感じている。学生は率直な疑問・質問を伝えやすかったのかもしれない。
- ・コロナ禍で手探り状態ではあったが、オンライン授業の良さと同時に問題点も認識できたので、今後の授業改善に生かしていきたい。
- ・授業評価も高く、提出された課題も今までにない質の高い内容であったので、オンライン授業もデメリットばかりでないことが認識された。
- ・オンライン授業という授業形態の大幅な変更であっても、満足度が極端に低下しなかったことから、授業は概ね上手く実施できたと評価している。
- ・オンライン授業における成績への大きな影響は認められなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応として、ハイブリッド型の授業を検討していく必要がある。

- ・ 再度の新型コロナや、インフルのパンデミックでも、Teams でできる方法を工夫しておきたい。
- ・ 予期せぬ形でオンデマンド授業となったが、各担当教員の工夫により対面授業とほぼ変わらない授業の質を維持できたのではないかと考える。
- ・ オンデマンドによる授業の経験を活かし、より学生の学びを手助けできる環境を改善できるようにしていきたい。
- ・ 動画配信によるオンデマンド授業などは、授業を補完するのによいシステムだと思う。今後、対面授業が基本となっても活用していきたい。
- ・ 授業動画を配信することで、学生の自己学修、復習の機会を平時よりは提供できた。
- ・ ビデオは、stream 配信 (Teams・manaba のリンク)、レポートは、Teams+manaba で配信し manaba 経由の提出、ドキュメント pdf は、manaba から download とした。以上により、遠隔授業として質の高い授業を提供できた。
- ・ 全担当教員が強い意思のもと、オンデマンドの動画配信を行い、その後にはほぼ毎回 Teams でグループワークを行ったことが、新入生の大学への帰属意識と 1 年次生の学修効果を高めることにつながったと考えられる。
- ・ 学生の主体的な学修のために、Teams を活用したグループワークやオンタイムの授業など取り入れて効果的な授業展開を検討したい。
- ・ 演習では、多様な質問に応じられるよう Teams でのリアルタイムの質疑応答に加えて、manaba を活用した質疑応答・進捗状況の確認を併用することが必要である。
- ・ 遠隔授業により自己学修時間が増加した。対面授業でも manaba を活用した事前・事後課題や小テスト、学修課題の提示等、自己学修時間を維持する工夫が必要である。
- ・ 講義内容に関連する質問に対しては、メールや Teams 等を活用しできるだけ早く返答・対応することはオンライン授業における学生の学修に対するモチベーション維持には重要である。
- ・ リアクションカードに該当するものがなかった。今後はオンラインであっても、毎回アンケートなどを取り活用していきたい。
- ・ ハンズオン形式の演習を取り入れたことで、理解も深まった。オンライン授業に適した資料作成には時間が足らず、今後、時間をかけて対応していきたい。
- ・ オンライン学修における個別の学修環境についてももう少し深く調査が可能であれば、それらを考慮した内容としたい。
- ・ 演習への取り組み状況、目的・目標の達成度から、ねらいはほぼ達成された。
- ・ 自己学修時間の向上が昨年度の課題であったが大幅に改善した。
- ・ 各担当教官が各自の視点で授業を少しずつ改善していければ良いと考える。遠隔授業は学生とのコミュニケーションを取るのが難しいので、来年度は対面授業が可能になることを望む。
- ・ オリエンテーションで目的・目標の説明と自己学修の必要性を強調し、今後も各期の授業の中で、学生自らが自己学修にとりくむような課題、学生の理解度に合わせた授業展開を工夫する必要がある。

- ・ 学生が課外時間に自己学修に取り組めるよう、事前および事後学修課題への取り組みを前提として授業を展開するなどの工夫を織り込む。

4. 授業評価の分析

4. 1 学生による授業評価

4. 1. 1 授業評価の実施率と学生による回答率にみられる特徴

平成 29 年度より manaba を用いた授業評価調査が導入され、事務局による一括した公開設定により授業評価が行われてきたが、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大により多くの科目がオンラインあるいはオンデマンドによる授業となり、教養教育講義科目と診療放射線学部専門演習科目のそれぞれ一科目が実施できず、実施率は 97%であった。また、manaba を利用した調査を開始した後のこれまでの回答率は、アンケート用紙の配布・回収による調査と比べ低くなっているが、本年度は昨年度に比べて 2.2 ポイント増加していた。教員へ授業評価アンケート回答率向上の必要性を周知し、講義の最終回に可能な範囲で授業時間内の時間を活用して学生に回答を促す等、回答率向上のための対策によるものと推測される。manaba による調査における回答率は上昇傾向にあり、教員の授業改善に向けた課題意識も高く、授業評価の回答率向上を目指す努力・工夫が継続されている。引き続き学生による授業評価の回答率向上に取り組み、回答率を増やすことによって授業評価の信頼性を高めて行く必要がある。

4. 1. 2 授業評価の得点について

授業評価の平均得点値は、評価項目⑧の週平均の自己学修時間を除いて、ほとんどの科目区分や授業形態において 4 点前後を示した。このことから、多くの授業は学生のニーズ・満足度を満たすレベルであったと評価できる。講義科目全体における項目別の平均で見ると、①「講義の内容を理解し、授業の目標を達成できたと思いますか。」および、⑥「シラバスを参考に、授業の目的や目標、各回のテーマを理解した上で講義を受けましたか。」の平均得点がそれぞれ 3.82、3.90 と低く、一方、実習および実験の⑦「わからない点は、教員・友人に質問したり、教科書等で調べるなど積極的に解決しようと思いましたか。」(いずれも 4.46) が最も高い値であり、⑨「講義にあたり自己学修を促す工夫(レポート・小テスト、manaba の利用など)がされていましたか。」(4.25 および 4.38) と⑩「総合的にみて、この講義に満足できましたか。」(4.35 および 4.43) が次に高い値を示した。この傾向から、実習および実験では、学生が積極的に参加する姿勢が強く、十分な自己学修を行っていたことがわかる。これは、⑧の自己学修時間が実習および実験で高い値であったことから確認できる。

各項目を科目区分別に見た場合、項目⑩の授業に対する満足度は、診療放射線学部の専門基礎科目・専門科目では 4.25、看護学部の専門基礎・専門科目では 4.18、そして、教養教育科目では 4.14 であった。また、項目⑦のわからない点に対する問題解決に向けた

姿勢は、診療放射線学部では4.24、看護学部では4.17、教養教育科目では4.13であり大きな差はなかった。この傾向は、教養教育科目から専門基礎・専門科目へと年次が進むに従い、演習や実習といった科目において目標達成に向けた主体的な学修活動が求められ、より積極的な授業への取り組み姿勢となったことが反映されたものと推察される。

目標達成に向けた主体的な学修活動に視点をあてると、全体傾向として評価項目⑧の自己学修時間が少ないことに注視する必要がある。科目区別にみると、診療放射線学部の専門基礎科目・専門科目の平均値は3.3、看護学部の専門基礎科目・専門科目では3.3、教養教育科目では3.2であった。この結果から、学生は各授業に対して週平均で1時間程度の自己学修時間しか確保していないことが判った。学修時間の不足は否めないが、昨年度と比較すると、およそ0.5時間の学修時間増加であった。本年度は新型コロナウイルスの感染拡大により多くの科目がオンラインあるいはオンデマンドによる授業となっており、自宅等での滞在時間が増加し、これに伴って学修時間も増加したことによると推測される。まだ十分な学修時間とは言えないため、主体的に学修活動に取り組むことができるよう今後も低学年からの積極的な働きかけが必要である。

自己学修については、シラバスに単位修得に向けた自己学修時間を記載し、事前・事後学修課題を明記する等の取り組みを行っているが、さらに学生が単位修得に向け自己学修に主体的に取り組むことを認識し、自己学修促進に向けた取り組みを継続して行くことが必要である。本年度は新型コロナウイルスの感染拡大によって教授方法が大きく変化した。Teamsを用いたオンラインとオンサイトで講義に対して、教員も学生も手探りで対応を進め、年度末には相互にICTツールを使いこなしていた。manabaには、コンテンツを利用した動画や小テスト・アンケートなど事前・事後学修に活用可能な効果的手段が準備されている。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、一部実習受入れが中止となり、オリジナル動画教材の作成・活用やDVD視聴、グループごとに双方向のWebカンファレンス、高機能シミュレーターやモデル人形を用いた看護技術演習、模擬事例を用いた看護過程の展開など様々な工夫により代替実習を実施した。昨年度までmanaba活用の知識や活用テクニックには教員側の準備状況に格差があり、その活用が十分なレベルには至っていなかったが、本年度の危機的な状況下で教員学生相互にICT利用の基本的知識を理解し、manabaやTeamsを活用する科目が多くなった。さらに学生の興味・関心を喚起し、主体的な学修活動への取り組みを促す授業改善が求められる。

4. 1. 3 学生の自由記述について

項目⑩の自由記述については、「この講義（演習 or 実習）の良かった点、改善点について、具体的に記入してください。」と質問内容を限定し、学生の視点による具体的な意見・感想を求めた。記述された内容には「リモートでの講義や演習も多かったが、演習などはグループワーク等で対面と変わらない意見交換ができた。実技演習もデモンストレーション動画や先生のアドバイスにより行えて良かった」「毎日のカンファレンスを実施す

ることで、学内ではあるが実習中であることを認識して毎日緊張感を持って取り組むことが出来た」「実習には行くことができなかったが、文献検討を通して自分の疑問を解決でき、より根拠に基づいた質の高い看護について学修できた」等、新型コロナウイルスの感染拡大によって対面授業が困難な状況であっても、教員が新たに考え工夫した教授方法による授業を通して保健医療専門職を目指す学生として学び得た知識を深め、さらに視野を広げ今後活用しようとする姿勢につなげることができたと評価できる。また、教員の実施した教授方法・工夫には目を見張るものが多数あった。「病院に行くことができなかった領域などもあったが、説明や画像などでどのような様子か知ることができたためよかった」「実際に Teams でグループの人と意見交換できたことが一番よかった。また、先生が意見をくださることもよかった。動画を見る講義では自分で考える時間もあり、学校で受けているような感覚だった」等、学生は対面授業ではなくても、授業内容の理解につながる質問形式の参加型の授業や、わかりやすい教材の工夫等に対して高い評価であった。さらに、「わからない部分を動画で見直すことができた」「小テストを行うことによって、自分がどこを理解できていないのが確認することができた」「具体的な画像や動画を見ながら色々と教えてくださったので分かりやすく理解しやすかった」等、manaba や Teams を活用した授業を通して、事前・事後学修に取り組む、学修内容の理解が深まる実感を得ていることが示唆された。一方、「質問・意見に対する回答・説明がわかりにくかった」「グループごとに先生が違うことで教え方が異なっていた」等の意見もあった。学生の主体的かつ意欲的な学修活動につなげることができるよう、これらの多様な意見や要望を真摯に受け止め、授業改善に向けた継続的な検討が必要である。

4. 2 教員による授業評価報告書について

学生による授業評価は、教員の授業展開・方法を客観的に振り返る機会となり、教授活動をさらに発展・強化するための貴重な資料である。教員による授業評価報告書は、学生の授業評価の結果をふまえ、授業内容の理解度と目標達成状況や、授業に対する取り組み状況、自己学修の促進への工夫、授業に対する満足度等の観点を学生の視点から捉え、授業方法や工夫した点が学生の理解度や目標達成状況に効果的であったのか等、客観的に自己評価が可能となる。授業評価報告書の内容には、授業評価の整合性の観点から回答率の向上の必要性、学生のニーズに応じた講義内容や授業展開方法の工夫・改善の必要性、学生が主体的に学修活動に取り組むための動機づけや教材の工夫、目標達成に向けた教員間の連携や指導体制の整備等、授業改善・問題解決に向けた対応策や新たな課題といった多様な記述内容が認められた。

また、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大により多くの科目がオンラインあるいはオンデマンドによる授業となり、教員の創意工夫により在宅での受講においても高い学修効果を得られる授業が展開された。教員による授業評価報告書からは、数多くの教授方法が確認でき、対面授業が困難な状況においても理解度を維持あるいは向上できたものと評

価できる。本年度の教員および学生の努力は、今後の教授および学修に大きく貢献するであろう。ICTを活用した授業展開は次年度以降も継続され、対面講義となっても有効に利用できることが確認された。

5. 令和2年度におけるFD部会・委員会の活動について

FD関連の組織は、学部では教務学生委員会の下部組織としてFD部会が設置されている。また大学院では、研究科専門委員会の一つとして研究科FD委員会が位置づけられている。

授業評価は、学部の授業科目ごとに実施され、FD部会長がとりまとめ、評価の実施と教員による授業評価報告書の作成依頼、FD教員研修会の企画・実施を行った。また、学生による授業評価及び教員による授業評価報告書の依頼は、本学の「群馬県立県民健康科学大学における授業評価実施要領」に基づいて実施し、FD部会では、この要領に基づいたアンケートの実施と集計・分析・報告書の作成を担当している。

本年度は授業評価調査を開始後11年目となる。平成29年度よりmanabaを用いた調査を導入し、昨年度からアンケート内容の一部が変更された。授業の改善点は学生の自由記載内容により明確化され、教員の実効性のある授業改善が図られている。アンケート内容の変更が授業改善に反映される効果をもたらすかどうかは、今後も継続してデータを蓄積しその推移を評価することが必要である。また、授業を改善しより質の高い内容とするために、アンケートの回答率を高める努力も必要である。

学生による授業評価と教員の授業評価報告書双方において、manabaやTeams等のICTを活用した教授方法や教材活用が学生の事前・事後学修に取り組む意欲を喚起し、授業内容の理解促進に効果的であることが示された。今後も引き続きmanaba活用の推進を図るとともに、ICTを活用した授業を次年度以降も継続し、対面講義にも有効利用する必要がある。

大学教育の目的は、教育・研究を通してディプロマ・ポリシーを満たす学生を育成することである。組織的な教学マネジメントの実践においては、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを基盤とした学修目標の具体化や、学修成果・教育成果の把握・可視化、FD研修会の実施等により教育課程の質保証を行っている。各科目の成績評価は平成30年度から成績評価ガイドラインが施行され、昨年度より正式に運用が開始されている。GPAで数値化された成績評価結果は、教員に対しても分析が行われて成績評価分布がフィードバックされ、成績評価の信頼性と学修成果把握の客観性向上に利用されている。

以上のように、授業評価結果に基づく授業改善・向上のみならず、学修成果の把握・可視化、適正な成績評価等を組み合わせた検討と改善により、本学の教育・研究の質向上に向けた取り組みが必要である。

6. まとめ

平成 29 年度より manaba を用いた学生による授業評価調査を開始し、一昨年度からのアンケート内容の変更により授業の改善点が明確化し、これを教員が授業内容等の改善に役立てていると評価されたが、今後も改善状況を確認して行くことが重要である。manaba による Web 調査は紙面調査よりも回答率が低い、少しずつ改善傾向にある。継続して回答率を高める努力をするとともに、データの蓄積とその評価を行う必要がある。

学生による授業評価の得点は、「自己学修時間」を除き、ほとんどの項目において平均 4 点前後であり、多くの授業は学生のニーズ・満足度を満たすレベルであったと評価された。また、これまでも課題であった「自己学修時間」は 3.3 となり、昨年度の 2.5 よりも 0.8 増加した。週平均 1 時間程度の自己学修時間であるので学修時間が足りないことは変わらないが、ICT の利用による増加の可能性が示唆された。これからも学生の自己学修への取り組みを継続することが必要である。内部質保証の観点からも、教学マネジメントを基盤にディプロマ・ポリシーの達成度を重視し、科目レベル・プログラムレベルで改善点を明確化し、継続的に取り組むことが求められる。

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大により体面授業が困難となったが、教員の創意工夫により在宅での受講においても高い学修効果を得られる授業が展開された。対面授業が困難な状況においても理解度を維持あるいは向上できたものと評価できる。本年度の教員および学生の努力は、来年度以降にも生かされることが期待でき、ICT を活用した教授方法等は対面講義においても有効に利用可能である。